

ラジオ沖縄 2011 年度 第 1 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 4 月 21 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:5 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/新城和博、宮城修、委員/友利郁子、大湾清之

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長(兼 番組担当ディレクター)/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ

◇審議議題:「泡盛よもやま話」聴取合評

◇議事の概要:4月の番組改編全般について、出席者全員で意見を述べ合った。

<局側説明>

1994年、初代パーソナリティーに醸界飲料新聞の仲村征幸氏を迎えてスタートした番組。2006年に栄町うりずんの土屋實幸氏に引き継がれ、今年17年目を迎えたラジオ沖縄の長寿番組のひとつ。お二人とも、沖縄県酒造組合連合会の泡盛大賞に選ばれるなど、泡盛文化の発展継承にその生涯を捧げる覚悟の人。番組は泡盛の戦前の歴史や戦後の歩みを、パーソナリティーが泡盛とともに歩んだ体験やエピソードを交えながら、よもやま話で綴る。また、泡盛の年間の催しを取材した音を紹介したり、ゲストにインタビューすることもあり、録音はほとんどスタジオ外で行っている。

担当はアナウンス・プロデュース共に屋良悦子。

スポンサーに久米島の久米仙がついているのだが、久米仙だけにとどまらず、「すべての泡盛を紹介していく」との精神で番組が進行している。

今回は2010年11月22日に放送された、野生生物生態学博士の安間繁樹さんをゲストに迎えた回と、2011年2月7日に放送された、泡盛百年古酒元年第15回仕込み式の模様を聴取。

<審議概要まとめ>

トークが非常に良く、ゲストインタビューの形式をとっていた1本目が気に入った。

昔の生活の様子が生き生きと出てきて面白い。あまり酒好きではない自分でも、泡盛の文化の深さが伝わってきたし、今日は泡盛を飲んでみようかな、という気持ちになる。

これからも普段のトークの中で泡盛文化をを感じられる番組になってほしい。

泡盛が人を惹きつけていく強さのようなものを感じ取ることができた。

ラジオ沖縄 2011 年度 第 2 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 5 月 19 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:副委員長/新城和博、宮城修、委員/友利郁子、松田克也、中村聡、島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 制作担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:「いつかのラジオDAYS」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜日午後6時～9時、月曜日午後7時～8時、火曜日午後7時～9時50分に放送中の「いつかのラジオDAYS」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

2010年10月、秋の改編よりスタート。当初は毎週火曜日から金曜日の 午後7時から9時52分の帯番組だったが、4月からナイターのスタートとともに現在の放送時間となる。番組担当の米吉奈名子は以前、「奈名子のドリームコール」という番組で一世を風靡し、現在も根強いファンが多い。30代以降のリスナーをターゲットにし、60年代から90年代の洋・邦楽問わず(演歌・ナツメロ・アイドルポップスは除く)、懐かしい曲をフルコーラスでお届けするリクエスト番組。残業中や帰宅中、夕飯作りや晩酌のお供に聴いているリスナーが多い。曜日変わりのコーナーでは、日曜日は、各国にいるうちなーんちゅを紹介する「世界のうちなーんちゅ」、火曜日は、新作映画をはじめ、懐かしい映画音楽なども取り上げる「シネマの日」、なかなか面と向かっては言いにくい事柄を手紙に託した「切手のない手紙」を不定期で設けている。今回審議会で聴いたのは5月17日(火)に放送した番組の抜粋版(約20分)。

<審議概要まとめ>

選曲が良い。純粋に音楽を楽しめる。

ドリームコール世代にとって、すぐに受け入れることができ、訴えかける力のある番組。

若い世代にも聴いてもらって、感想を聞いてみたい。

古いレコードをデジタル化して保存してほしい。

無理にコーナーを作らないところや、演歌を省いたところなどが「本当に良いものだけ紹介できる」と高評価。

ラジオ沖縄 2011 年度 第 3 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 6 月 16 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:7 名

◇出席委員:副委員長/豊川あさみ、宮城修、委員/友利郁子、松田克也、中村聡、島田勝也、大
湾清之

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ

◇審議議題:「土曜の夜はスケールアウト～ナイト オブ ザ スピリチュアル」聴取合評

◇議事の概要:毎週土曜日午前10時30分～11時30分に放送中の「土曜の夜はスケールアウ
ト～ナイト オブ ザ スピリチュアル」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

昭和63年から続く長寿番組。2011年から新パーソナリティーを迎えてリニューアルしたトーク
番組。パーソナリティーはスピリチュアル・カウンセラーの「はる」とマスミ・ロドリゲス。ラジオ・テレ
ビ界では空前の沖縄のユタ(霊能者)ブーム。琉球王朝時代から続く正統なユタ(霊能者)であり、
スピリチュアル・カウンセラーのはるをメインパーソナリティーに、進行役として底抜けに明るいマス
ミ・ロドリゲスを入れ放送。(はるは現在活動の場である横浜から、この番組のためだけに帰郷し
出演している)

番組中では、全国的にも有名なアーティストを排出する沖縄で日々活動している、アマチュアから
プロと呼ばれるアーティストをスタジオに招き、ライブやイベントを紹介しながら、はるによる鑑定を
行う。今回のゲストは、沖縄ロック界の大御所「チビ」こと宮永永一さん。他にも一般のリスナーか
らメールやはがきを頂き、悩んでいることの相談や電話を結んで生出演していただき鑑定を行って
いる。

<審議概要まとめ>

悩んでいる人が多い現代社会にとって必要な番組。

はるとマスミのコンビのテンポが良い。ゴールデンタイムに移しても十分やっていける番組。

ユタ+ハーフウチナー口という全く新しい切り口のコンビが斬新。

沖縄はユタに慣れているから、鑑定の結果が良くても悪くても自分なりに納得できると思うので、
悪かった時のマニュアルなどは特に作らなくてもいいと思う。

はるの語り口が良く、悩んでいる人たちに適切なアドバイスができています。

世の中に貢献できる、質の高い番組だと思う。

ラジオ沖縄 2011 年度 第 4 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 7 月 21 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:7 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/宮城修、委員/友利郁子、松田克也、中村聡、島田勝也、大湾清之

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当ディレクター/安村 美和子

◇審議議題:「エンジョイ Sunday」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜日午前10時～11時55分に放送中のエンジョイ Sunday」を全員で聴取り、意見を述べ合った。

<局側説明>

2000年4月に放送スタート。歴代パーソナリティは小磯誠アナ、菊池志乃アナ、そして今年の3月まで担当していた森田弘美アナ。4月から金城奈々絵アナに代わり、新たな「エンジョイ Sunday」を放送している。

日曜日を楽しく過ごしてもらおうと、肩のこらないトークと、思わずハミングしたくなる音楽を中心に、様々なコーナーで構成している。内面の美しさ、生き方を伝える「伊藤嘉子の美しい贈り物」、石垣島在住の松原カイさんと電話をつなぎ、石垣島の生の情報を伝える「八重山からにいふあいゆ」、そして、視覚に障害を持つシンガーソングライターの大城友弥君がパーソナリティを務める「大城友弥のハートフルライフ」の3コーナーを柱に、毎回一つのテーマのもとに選曲した「メモリアルソング」、金城アナおすすめの曲を紹介する「奈々絵セレクション」がある。また、リスナーから寄せられたメッセージやリクエストもかけている。

<審議概要まとめ>

休日これから出かける人たちのための情報をもっと入れてほしい。

各地域・各離島のイベント情報も紹介してほしい。

コーナーごとにメインパーソナリティーが変わっていくので、番組に色の変化が出て良い。

金城アナの声が時間帯の差別化ができていて良い。

友弥君のコーナーは急ぎすぎ。間が取れていない感じがする。

シンガーソングライターなのだから、友弥君が直接歌う時間があるともっと良いと思う。

点字パソコンで文章を読んでいることや、視覚障害者がパソコンを使えるということ自体知らない人が多いので、説明を入れてほしい。

点字パソコンでメールを読んでいるということを知らないと、『なんでこんな簡単な文章でひっかかるんだろう』など、リスナーに誤解を与えそう。

八重山担当の松原さんはとても進行上手。この調子で島の彩色を豊かにして行ってほしい。

ラジオ沖縄 2011 年度 第 5 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 9 月 15 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:5 名

◇出席委員:副委員長/宮城修、副委員長/新城和博、委員/友利郁子、中村聡、島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当アナウンサー/金城奈々絵

◇審議議題:イブニングワイド番組「MIX」内コーナー「マイクアラカルト」より、「明和の大津波に関するシリーズ企画～震災を忘れない」聴取合評

◇議事の概要:毎週月～金曜日午後4時～6時15分に放送中のワイド番組「MIX」内の報道取材コーナー、「マイクアラカルト」で9月5日～9月8日の間シリーズとして取り上げた「震災を忘れない」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

東日本大震災の発生から今月で半年が過ぎた。沖縄県内でも、今から240年前に大きな津波が押し寄せ、尊い命が失われた過去がある。後に明和の大津波と呼ばれるようになったこの災害について、どのような伝承・教訓が残っているのか取材し、シリーズ「震災を忘れない」と題して放送した。

<審議概要まとめ>

「灯台下暗し」ではないが、沖縄でも離島には地震にまつわる伝説があり、きちんと防災マップに活かされるなど現代に残っていることを知ることができて良かった。「文化を伝えていく」という離島の地域性が感じられた。

防災についてはもっと伝えていくべき。沖縄は台風が多いので、今度は台風を表問題にしてシリーズ化してほしい。

ラジオ沖縄 2011 年度 第 6 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 10 月 20 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/宮城修、副委員長/新城和博、委員/友利郁子、松田克也、大湾清之

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/小磯誠

◇審議議題:「My Favorite Song～わたしこの歌」聴取合評

◇議事の概要:毎週土曜日午後5時30分～5時45分に放送中の「My Favorite Song～わたしこの歌」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

今年7月からスタートした番組。

経営者からミュージシャンまで、職業や年齢層が全く違う多彩なゲストを毎週迎え、そのゲストの思い出の1曲を紹介しながら、その曲にまつわるエピソードを聴く。

今回はその中から、10月15日に放送したアルベルト城間さん出演の回をお聴きいただく。

パーソナリティーは島ちゃん、新垣リエの二人。

<審議概要まとめ>

土曜日の夕方という時間帯に合っている。曲からスタートするのは非常にいいし、様々なゲストの話が聞けるので、面白い番組。

島ちゃんが中心に進行すると話がそれぎみになるので、新垣アナがきちんと進行するほうがいい。似たような番組が他局にもある中、他局との違いをどう出すかも今後の課題。

ラジオ沖縄 2011 年度 第 7 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2011 年 11 月 17 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:4 名

◇出席委員:副委員長/宮城修、副委員長/新城和博、委員/友利郁子、松田克也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:「ひとしーの唄ぬちゃうき」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜日深夜24時30分～25時(月曜日午前0時30分～午前1時)に放送中の「ひとしーの唄ぬちゃうき」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

「民謡の花束 いーりきサンデー」を1年担当した喜屋武均が、秋の番組改編に伴い、10月より深夜に番組をお引っ越し。うちなーぐちを覚えるために喜屋武均が中学生の頃から聞いていたという「古き良きオーソドックスな民謡番組」を目指した番組。

時節にぴったりの民謡の紹介や引き語りあり。

今回は10月31日・第4回放送分を聴取。

<審議概要まとめ>

タイトルがかけ言葉になっているのがまず面白い。

日曜日の深夜に民謡を聞く人がいるのか?と疑問に思っていたが意外と反応が良いので驚き。

メールを無理に紹介する必要はない。

曲に対するうんちくをもっと語るなど、説明が多い方が聴いていて引き込まれると思う。

人の聞かない名曲をもっとピックアップして流してほしい。

パーソナリティーの人となりが見えてこないのが、普段の仕事のワンシーンや介護のワンポイントなどを話すと、フリートークがいきいきしてくると思う。

即興で「おめでとうの歌」などの引き語りができるのは良い。

ラジオ沖縄 2011 年度 第 8 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 1 月 19 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:4 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/宮城修、副委員長/新城和博、委員/島田勝也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ

◇審議議題:「民謡の花束 姫と唄あしび」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜日20時～21時に放送中の「民謡の花束 姫と唄あしび」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

日曜の夜、民謡歌手の我如古より子が娘のさーきと二人でお送りする民謡リクエスト番組。収録形式。時節にぴったりの民謡の紹介や引き語りあり。娘であるさーきが留学の経験を活かして、沖縄の黄金言葉と各国のことわざとの比較や共通点を探っていく「さーきのコトバ遊び」というコーナーを設けている。

今回は1月15日放送分を抜粋で聴取していただいた。

<審議概要まとめ>

番組の最初に自己紹介がないと、我如古さんの相方は誰なのかまったくわからない。自己紹介の時間を設けてほしい。「民謡の花束」という看板がとても大きく、昔の番組のイメージがあるので違和感を覚えた。「親子二人でやっているスナック風の番組」と言われると納得できる。

ラジオ向けの話し方を磨くべきなのか、もともとお店のファンである人向けに話すのか、方向性を考えたほうがいい。

せっかく外国語のコーナーがあるのだから、沖縄のことわざをもっとゆっくり、はっきりと紹介して、外国語のことわざも繰り返して紹介するなど、わかりやすく伝える工夫が必要だと思う。二人とも島唄ができるのだから、生唄のコーナーを作ったり、母親のヒット曲を娘が生唄でカバーする等の仕掛けがあると、タイトルの「唄あしび」らしくなって良いのではないか。

ラジオ沖縄 2011 年度 第 9 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 2 月 16 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:6 名

◇出席委員:副委員長/宮城修、副委員長/新城和博、委員/島田勝也、中村聡、友利郁子、松田克也

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当ディレクター/阿利貴子

◇審議議題:「ワールドウチナンチュ」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜日18時～19時に放送中の「ワールドウチナンチュ」を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

2011年10月から放送開始。

かつて沖縄テレビで世界中の沖縄県系人を取材し、「沖縄発われら地球人」や「世界ウチナンチュ紀行」などの番組を担当した前原信一アナウンサーがナビゲーターを務めるラジオ紀行番組。今回は1月8日放送分を20分に編集した短縮版を聴取。

<審議概要まとめ>

番組タイトルや「沖縄県系人の取材と言えば前原さん」という先入観から、取材相手の肉声や現地の生の音が出てくるのだろうと思込みがちだが、それが良い意味で裏切られていると思う。番組前半で疑問に感じたことに、とても自然に後半で答えが出てくるので、引っ張りなどの嫌味感がなく聞きやすい。

放送時間が早い。もう少し遅い時間にしてほしい。

曲に持っているこだわりも紹介すると、もっと番組が深くなると思う。

次世代への繋がりを作るためにも、ぜひポッドキャスト配信してほしい。

ラジオ沖縄 2011 年度 第 10 回番組審議委員会議事録

◇開催日時:2012 年 3 月 15 日(木)15:00～

◇開催場所:(株)ラジオ沖縄 3 階スタジオ

◇委員総数:8 名 出席委員:7 名

◇出席委員:委員長/豊川あさみ、副委員長/宮城修、副委員長/新城和博、委員/島田勝也、中村聡、友利郁子、大湾清之

◇放送事業者側出席者:制作報道部 報道担当部長/屋良悦子、審議会事務局/新垣リエ、番組担当ディレクター/中村雄一郎

◇審議議題:「フィルマチグワーソレイユ 震災特集」聴取合評

◇議事の概要:毎週日曜日13時～15時30分に放送中の「フィルマチグワーソレイユ」から、3月11日放送した震災特集を全員で聴取し、意見を述べ合った。

<局側説明>

2011年11月から放送を開始した生放送番組。パーソナリティーは伊波紗友里アナウンサーと、今帰仁を拠点に落語の活動を行っている北山亭メンソーレの二人。

「日曜お昼限定のバーチャル市場」をコンセプトに、2時間半の枠の中にパーソナリティー個々のコーナーを市場にオープンしている店舗に見立てて放送。

今回は特別編として、東日本大震災からちょうど1年が経過したこの日、伊波紗友里アナウンサーが被災地である宮城県南三陸町を取材し、現地の方の生の声を中心にレポートをお送りした。

番組放送中に震災発生時刻である14:46分を迎えたため、黙祷を行う。

リスナーに対しては「沖縄から被災地へできることは何か」をテーマにメッセージを募集し、震災を忘れないために沖縄に住む私たちはどうすれば良いのかを一緒に考えた。

<審議概要まとめ>

普通なら震災の日は全くの震災特番を作るものだと思っていたのだが、普段放送している番組の形を少し変えて「震災特集」にしているところに好感が持てた。沖縄のメディアだから「沖縄出身の人が被災地にいる」と知らせることでリスナーの関心も引きやすくなる。

県人会の人を取り上げたことで、沖縄で聞いている人たちに「自分の身に起きた災害」としてとらえる良いきっかけになったと思う。

3月11日当日に震災特集を作ったことに意義がある。

普段は正反対の内容の番組だが、今回震災特集をしたことで「時々真面目な特集を組める」という幅が広がったと思う。